

60分でわかる旧約聖書(7) 「士師記」

1. はじめに

(1) 著者

- ①王政に入って以降に、書かれた書である。
- ②著者が誰かは分からない。
- ③サムエルである可能性が高い。

(2) 名称

- ①士師記という名称は、この書に登場する士師たちから取られたものである。
- ②士師は「ショフェット」である。英語では「judge」「deliverer」である。
- ③彼らは裁判官であり、また政治的・軍事的指導者、敵からイスラエル人を解放する解放者、救済者でもあった。
- ④士師記には、12人の士師たちが登場する。
- ⑤それぞれの士師に関する記録の長さは異なる。短いものは1節である。

(3) 内容

- ①ヨシュアが死んで以降のイスラエルの民の歴史を取り上げている。
- ②ヨシュアの指導のもと、土地が各部族に分割された。
- ③イスラエルの民は、大いなる期待を持って約束の地に入った。
 - *勝利ある生活
 - *豊かな生活
 - *ヤハウエの栄光を反映させた生活
- ④しかし、各部族は異教の民を完全に追放することができなかった。
 - *それが問題の根本原因となった。
 - *イスラエルの民は、しばしば異教の民に征服された。
 - *神は、その都度「士師」と呼ばれる指導者を立て、民を解放した。
- ⑤士師記は、「敗北と解放の書」である。
- ⑥また、「失望の書」でもある。

(4) 士師たちの活動期間

- ①オテニエルからサムソンまで、約325年間
- ②各士師の活動期間を合計すると、400年以上になる。
- ③士師たちの記録は、年代順ではない。
- ④活動が同時進行した士師たちがいる。
- ⑤彼らの活動は、モーセやヨシュアと異なり地域限定型であった。

2. アウトライン

- (1) 過去と未来 (1 : 1~3 : 6)
 - ①過去 (1 : 1~2 : 10)
 - ②未来 (2 : 11~3 : 6)
- (2) 士師たちの時代 (3 : 7~16 : 31)
- (3) 民の崩壊 (17~21 章)

3. 結論

- (1) 歴史の法則
- (2) クリスチャン生活の法則

補足 : 12人の士師たち

1. オテニエル (3 : 1~11) : 11 節
2. エフデ (3 : 12~30) : 22 節
3. シャムガル (3 : 31) : 1 節
4. デボラ (4~5 章) : 2 章
5. ギデオン (6 : 1~8 : 32) : 3 章
6. トラ (10 : 1~2) : 2 節
7. ヤイル (10 : 3~5) : 3 節
8. エフタ (10 : 6~12 : 7) : 2 章
9. イブツァン (12 : 8~10) : 3 節
10. エロン (12 : 11~12) : 2 節
11. アブドン (12 : 13~15) : 3 節
12. サムソン (13~16 章) : 4 章

士師記を通して、歴史の法則について考える。

I. 過去と未来 (1 : 1~3 : 6)

1. 過去 (1 : 1~2 : 10)

- (1) ヨシュアが死んで以降の各部族の戦い
 - ①各部族は、自分の割り当て地において先住民を追放する戦いを展開する。
 - ②この戦いは、イスラエルの民にとっては定住地を獲得するための戦い。
 - ③先住民にとっては、主の裁きを受ける戦い。
- (2) ユダ族の戦い
 - ①シメオン族との協力

- ②エルサレムは、エブス人が住み続ける。
- ③ベニヤミン族との協力

(3) 北の部族による征服

- ①中途半端な戦いしかできなかった。
- ②カナン人を完全に追い払うことができなかった。
- ③カナン人が点在していたため、部族間の移動の自由がなくなった。
- ④カナン人の偶像礼拝はそのまま残された。
- ⑤イスラエル人はその影響を受け、背教の民となっていく。
- ⑥カナン人と関係を結ぶようになり、契約の民としての特徴を失っていった。
- ⑦神は、カナン人の存在を、イスラエル人の信仰を試すものとして利用された。
- ⑧民が不信仰に陥った時には、神はカナン人を裁きの器として用いた。
- ⑨悔い改めた時には、カナン人の手から救い出した。
- ⑩第3世代の者たちには、戦争の経験がなかった。
- ⑪戦争の経験は、王制に移行するためにどうしても必要なものであった。

(4) 第2世代から第3世代へ

- ①ヨシユアの死後も、【主】の奇跡を目撃した長老たちがいた(第2世代)。
- ②これらの長老たちが生きている間は、民は【主】に忠実に歩んだ。
- ③第3世代になると、民は自分勝手な歩みをするようになった。
- ④第3世代がどのように歩んでいたかが、士師記の時代背景となっている。

2. 未来(2:11~3:6)

- (1) 士師時代にくり返されるあるパターンが紹介されている。

①背信の段階

*イスラエル人はバアル礼拝に取り込まれていく。

②裁きの段階

*隣国の人々を用いて、【主】がご自身の民を裁かれる。

③悔い改めの段階

*イスラエルの民は苦難の中から【主】に助けを呼び求める。

④士師による解放の段階

*民の叫びを聞いた【主】は、士師を送り、敵の手から民を救う。

II. 士師たちの時代(3:7~16:31)

1. オテニエル(3:1~11):11節

- (1) カレブの弟である。
- (2) 敵は、アラム・ナハライムのクシャン・リシュアタイム。

2. エフデ (3:12~30) : 22 節

- (1) 左利きの士師
- (2) 敵は、モアブの王エグロン。

3. シャムガル (3:31) : 1 節

- (1) 「牛の突き棒」を使って戦った士師
- (2) 敵は、ペリシテ人。

4. デボラ (4~5章) : 2 章

- (1) 12人の士師の中で唯一の女性。
 - ①彼女は女預言者と呼ばれている。
 - ②実戦の指導者としてバラクを立てたが、バラクはあくまでも援助者。
- (2) 敵は、ハツオルの王ヤビン。
 - ①鉄の戦車 900 両がキシオン川のほとりで動けなくなった。
 - ②【主】が大雨を降らせた。

5. ギデオオン (6:1~8:32) : 3 章

- (1) マナセ族の中で最も弱い分団に属していた。
 - ①酒ぶねの中で小麦を打っていたときに、【主】の使いが現れた。
 - ②神の御心を確認するために、しるしを求めた。
 - ③羊の毛の上に霜が降り、土全体は渴くように。
 - ④次は、その逆を求めた。
- (2) 敵は、ミデヤン人。
 - ①3万2千人の兵士を 300 人に減らした。
 - ②水の飲み方で、300 人を選抜した。

6. トラ (10:1~2) : 2 節

- (1) 平和と繁栄の時代の士師である。45年間。
- (2) アビメレク(ギデオオンの息子)の時代に起こった混乱を静めた。

7. ヤイル (10:3~5) : 3 節

- (1) トラと同時代の平和と繁栄の時代の士師である。45年間。
- (2) ヨルダン川東岸からの士師である。

8. エフタ(10:6~12:7) : 2章

- (1) ギルアデ人の父と遊女の母の間に生まれた。
 - ①正妻の息子たちから差別を受け、ギルアデから追い出された。
 - ②彼の回りにはごろつきどもが集まるようになった。
 - ③彼らは、敵の領土に侵入し、食物や必需品などを略奪するようになった。
 - ④これが彼らに戦闘の経験を与えた。
- (2) 敵は、アモン人。
 - ①最初に出て来る者を「全焼のいけにえ」として捧げるとの請願を立てた。
 - ②最初に踊りながら出て来たのは、彼のひとり娘であった。
 - ③モーセの律法によれば、これは正式な請願ではないので、取り消すことができた。
 - ④それをしなかったのは、無知であったか、頑なであったかのどちらか。
 - ⑤娘は死んだのか。2つの意見がある。
 - *文字どおり「全焼のいけにえ」として殺された。
 - *終生幕屋で仕えるために【主】に捧げられた。

9. イブツァン(12:8~10) : 3節

- (1) ゼブルン族のベツレヘム出身。
 - ①一夫多妻制を実行し、30人の息子と30人の娘をもうけた。
- (2) 「平和と繁栄の時代」の士師

10. エロン(12:11~12) : 2節

- (1) ゼブルン人
- (2) 「平和と繁栄の時代」の士師

11. アブドン(12:13~15) : 3節

- (1) エフライム人
 - ①40人の息子と30人の孫がいました。
- (2) 「平和と繁栄の時代」の士師
 - ①「70頭のろばに乗っていた」とある。

12. サムソン (13～16章) : 4章

- (1) ダン族に属するマノアの無名の妻(不妊)が母である。
 - ①【主】の使いによって、胎内にいる時からナジル人であると宣言された。
 - ②ナジル人とは、「聖別された者」。
- (2) 敵はペリシテ人
 - ①髪の毛を剃られたとき、彼は力を失った。
 - ②最後に彼は、約3,000人のペリシテ人を殺した。

III. イスラエルの民の崩壊 (17～21章)

1. 士師 17:6

「そのころ、イスラエルには王がなく、めいめいが自分の目に正しいと見えることを行なっていた」

2. 崩壊の過程

- (1) 偶像礼拝 (17～18章)
- (2) 不道徳 (19章)
- (3) 内戦 (20～21章)

結論

1. 歴史の法則

- (1) 妥協 → 交流 → 偶像礼拝 → 神の裁き
- (2) 士師時代にくり返されるパターン
 - ①背信の段階
 - ②裁きの段階
 - ③悔い改めの段階
 - ④士師による解放の段階
- (3) 国が崩壊する過程
 - ①霊的崩壊
 - ②道徳的崩壊
 - ③物理的崩壊
- (4) この時代の失敗が、次の王制に移行するための準備となっている。

2. クリスマン生活の法則

(1) 【主】は欠点のある者や弱い者を用いてくださる。

- ①3番目の士師シャムガルの例
- ②彼は、ペリシテ人600人を打ち殺して、イスラエルを救った。
- ③「牛の突き棒」を使って戦った。それ以外に武器がなかった。
- ④発掘された突き棒は、長さが約2.4メートルで、先端が周囲約15センチあり、細いほうの先端には、先のとがった鉄製の頭がついていた。
- ⑤このような粗末な棒で大勝利を収めたとは、驚くべきことである。
- ⑥ここに、主の戦いに勝利する秘訣がある。

(2) 勝利する力は、聖霊から来る。

- ①12番目の士師サムソンの例
- ②サムソンは、胎内にいる時から、神へのナジル人であった。聖別された者。
- ③酒を飲まない、汚れた物を食べない、頭にかみそりを当てない。
- ④サムソンはイエス・キリストの型である。
 - *その出産が、通常のものとは違っていた。
 - *サムソンは「太陽の子」という名を与えられた。
 - *サムソンは主の祝福を受けて成長した。
 - *サムソンは聖霊の力によって活動を開始した。
- ⑤新約聖書では、バプテスマのヨハネが終生のナジル人である。
- ⑥霊的には、私たちクリスマンもまたナジル人である。

「わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです」(ヨハネ15:5)